

西朋

17

西朋会

1969-5

西朋登高会

3
10.
20, 20
40

目 次

A	山 行 報 告	
1	冬山合宿（1967年度）	3
2	春山合宿（ ” ）	6
3	五月谷川岳雪上訓練（以下1968年度）	12
4	北岳パットレス第4尾根岩登り	13
5	夏山合宿	14
6	冬山合宿	16
B	新 人 紹 介	19
C	住 所 録	20
D	西高WV部部員住所録	23
	編 集 後 記	25

A 山行報告

1 冬山合宿(1967年度) — 白馬岳

◎参加者 (C.L)上遠野, (S.L)三浦等, 平木, 梅原, 尾崎, 宮武,
滝口, 山野

◎12月17日(小雪, 後晴れ)

親の原でバスを降りたが, 唐松リフトが動いていないので白樺リフトまで1時間半歩いた。未だシーズン前なのでリフトの整備が悪く, 何回も止まったのでえらく時間をくった。最後のリフトを降りたらもう11時, 飯を食べ45分に出発。少し歩いてシールを着ける。樹林帯を水平にトラバースしていくが, シールはずれなどにより三浦, 滝口が遅れる。悪戦苦闘の結果下からのトレースと合流した。神の田圃の小屋の上にB・Cをつくる。15時半。先発隊4人の最初の一夜。

◎12月18日(快晴, 時々ガス 5時20分-13°C)

シールを張るのに手間どり, 8時10分に出発。40分歩いて成城小屋に着き小休止, ここより右の尾根にルートをとる。樹林帯の中の苦しいラッセルが続く。天狗原に11時10分に着き, 55分迄食事。乗鞍の登りは大きくジグザグを切ってシールをきかせてのぼる。かなり上部まで行ってからスキーをはずしツボ足になった。13時40分に頂上着, 平らで変化がなく, 広い。風は超一流。池の向う側が印象的だった。荷をデポし, 14時10分スキーで下り開始, 北よりの沢に入る。岩があるが快適に下りる。下の方はやたらに転んだ。15時35分, B・Cにもどる。

◎12月19日(曇のち雪, 4時-8°C, 21時-9°C)

三浦, 梅原, 滝口は荷を全部持ちCI建設へ出発。CI着14時半。上遠野は後発隊を迎えにリフトの終点へ。9時頃後発隊(平木, 宮武, 尾崎, 山野)と合流。食事をして今度は一度グレンデの中段まで下り, そこからトレースを行く。シールはずれやビンディング不調による遅れあり。15時半に成城小屋から天狗原まで約3分の1行った地点で幕営。上遠野はトランシーバーを受取ってそのままCIへ向かう。天狗原上部にて日没。やや上ってシールがはずれてデポする。あとはキックステップだが, ひざまでのラッセルに苦しむ。頂上

直下でアイゼンをつける。何しろバテた。22時半就寝。

◎12月20日(快晴, 風強し)

後発隊と6時に交信し, また寝て8時に起床。絶好の天気なのに下から来ないのでCII建設に向かえず。11時45分現在風強し。未だ天狗原にいる。結局三浦, 梅原を逆ボッカに出し, CIに全員集合。明日からは荒れそうな天気図だった。

◎12月21日(風雪)

目覚時計が不調で寝過ごし, 6時に起床。9時5分に風雪の中を出発しCII建設に向かう。山野は風邪がひどくテントキーパー。池からの上りで平木体調悪く, 梅原, 宮武がついてCIに戻る。他は深いラッセルと悪い視界に悩まされつつ前進, ラッセルは頭以上のことしばしば。小蓮華手前の風下で昼食(12時5分~14時)。この間に二人を迎えに行くが完全にトレール無し。全員合流して更に前進する。小蓮華からは風が正面から当たる。30分程でCII建設, 上遠野, 滝口はすぐ引返す。腰までのラッセルだが, 時々ルートを確認する程度でノンストップでCIへ帰る。池からCIまでが嫌だった。トランシーバーはあまりよく聞こえないが, 八方尾根のはガンガンはいる。

◎12月22日(吹雪)

5時起床, 停滞決定。6時交信。きりつめ生活開始。キジ打ちが大変である。12時の交信は立教が中継してくれた。

◎12月23日(吹雪)

またまた目覚まし鳴らずに6時の交信を逃がす。CIIのサポートに行くも猛吹雪のため引返す。夜6時に交信, 明日出来る限り撤退することを命ずる。

◎12月24日(吹雪)

6時起床。交信でCIIが8時に下山を開始することを確認。CIより上遠野, 平木, 滝口がサポートに出発, 8時10分。ラッセル深く, 全然はかどらない。平均して膝上ぐらいで, かつしまり雪のため10時過ぎ現在まだ池の上の斜面に居る。視界はほとんど無い。11時頃NO.17の標識を見つけ, 尾根上に出たことを確認。途中大声でCII側の隊員とのすれ違いを防ごうとした。10分程行き, 我々の現在の位置から判断して, 吹雪の中ですれ違ったものと考えついに引返す。今来たばかりのトレールはことごとく消えている。12時55分

CI着。山野が12時の交信で、三浦が墜落し、行方不明になった旨の報告を受けたとのこと。13時は交信不能だったが愛知教育大に中継を依頼した。種々の場合を想定したが、4時の交信で残り3人が近くで迷っていることが分り、すぐ迎えに出る。CIに7名集結。三浦は転落後、しばらくは応答があったとのことなので、雪崩れか出血以外は持物や天気から判断して、一応今日明日は大丈夫と考え明日の行動を想定した。トランシーバーは2台とも先刻外に出た時入った雪が融けて絶縁不良になり使えない。結局他パーティーには遭難の連絡が出来なかった。夜、星が出始める。

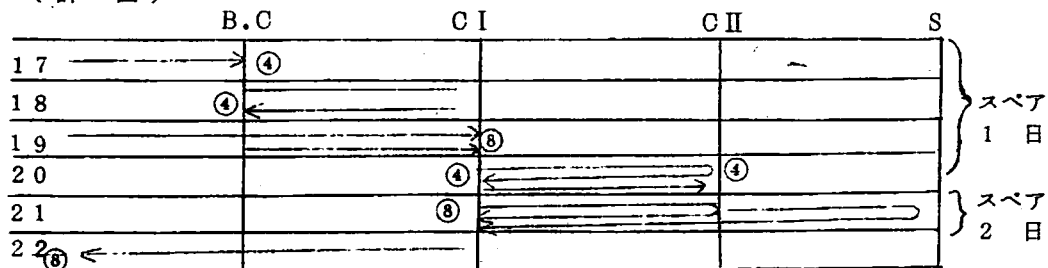
◎12月25日(晴)

4時起床。狭いため準備に手間どる。梅原足に凍傷、尾崎手の指に2度の水ぶくれができる。7時半、平木、山野連絡に下山。8時5分残り5名出発。小屋に1名居たが三浦とは確認できずそのまま通過。すごい速さで小蓮華へ。現場は強風でシャベルが飛ばされたいが大体見当をつけ、風下側で行動を起そうとした時、小倉アルペンの人が三浦が無事CIに到着した旨連絡してくれ、即座にCIに戻り無事の再会を喜ぶ。小休止の後、上遠野は連絡にスキーで下山、東急山荘前で平木と会う。警察とごたごたあり。残りはできるだけ下山ということを命じたが凍傷でバックに手間どり、天狗原のすぐ下で幕営。上遠野、平木は幕営地に戻れず御殿場小屋に入る。山野帰京。

◎12月26日(晴)

早朝平木は残りを迎えに天狗原に向かう。成城の上で梅原、尾崎、滝口に会い御殿場小屋へ。上遠野は遅れた三浦、宮武を迎えに出、早大と成城の中間で会う。7名小屋に集結、一部は下山し、以後現役のスキー合宿に合流して指導する。天気判断のミスにより、事故、凍傷などを惹起したわけだが、計画の不十分さ、更にはリーダーとしての力量不足から失敗を招いたといえる。この経験が今後の会の前進に資すれば幸いである。(上遠野記)

(計画)



(行動)

	B.C	CI	CII	S
17	→ ④			小雪のち晴
18	(1) ④ ←	→ ④		快 晴
19	→ ④	→ ④		曇のち雪
20		⑧ → (2)		快 晴
21		④ ←	④	風 雪
22		停滞		吹 雪
23		停滞		吹 雪
24		⑦	①	吹 雪 晴
25	← ⑤			快 晴
26	←			快 晴

2 尋山合宿(1967年度) — 横尾尾根から槍ヶ岳

◎参加者—(C.L)上遠野 (S.L)三浦等,平木,尾崎,三浦潤,山野

◎3月6日

島々発8時の沢渡行のバスに乗る。沢渡を9時35分に出てバス道をラッセルなしでバンバン行く。11時50分坂巻を通過し,12時55分釜トンの中で昼食をとる。トンネル拡張工事用のトラックが時々通る。トンネル内は殆んど氷っていない。出口よりも堰堤付近が悪い。途中小休止してスキーをつける。4時10分に大正池畔の小屋のあるところに幕営。焼岳が全貌を現わし,大正池の向こうには岳沢から明神が印象的であった。

◎3月7日(快晴)

4時起床6時25分発。木村小屋に入山の挨拶と差入れを済ませ,バス停でスキーをつける。明神まで2Pかかり大休止をとる。しばらく樹林の中を行き時をくう。この頃よりシールに雪がつき出す。河原に出ると後から強い風が吹くので助かる。眼前に横尾尾根と上部稜線,左手に北尾根及び前穂東壁四峰正面等の岩壁群,右前方に常念,更に右手にはなだらかな蝶,大滝の山々が我々の目を楽しませてくれる。14時15分に横尾冬期小屋に入り,秋に荷上げしておいた物を確認し,15時45分に上遠野,尾崎はルート偵察に出発。屏風岩を正面に見るところまで登り,一応の偵察を済ます。北穂付近に雲が現われ,明日の荒天を暗示するようになんたら広がる。下りはスキーがよく滑り,横尾谷に出てからはまっすぐ横尾迄すべれた。この頃より雨が降りだした。慶応大アルペンクラブが槍の穂先で事故を起し,あわただしい中で就寝。

◎ 3月8日(雨)

外での行動は中止し、一日食料整理に費やした。夕方慶応の負傷者が着いた。

◎ 3月9日(雪, 1日中 -10°C)

昨日の雨は雪に変わっていた。3時に起床し、上遠野、三浦等、尾崎の3人でルート偵察に出る。平木、三浦潤、山野は岩小屋まで2往復の荷上げ。岩小屋の先でうっすらと夜が白み出した。粉雪とその下のガリガリという雪崩の出そうな中を黙々と登る。時々左手に屏風岩が圧倒的に見える。横尾尾根の3本目のルンゼの左の樹林をシールをきかせて大きくジグザグに登り、8時にシールドポをしてアイゼンにはきかえルンゼの右岸をのぼる。ブレイカブルクラストの上に雪が積もっていてラッセルは抄らない。途中1回休み約1時間半かかってコルへ。稜線は風が強く、三浦は眼鏡がくもって行動不能なので上遠野、尾崎でC Iへのルート偵察に行く。すぐ上の雪壁を25mフィックスしたが雪が悪く時間がかかった。その後は緩やかになった尾根に行く。前のパーティのフィックスを利用する。10時50分にC I予定地に着き、三ツ道具をデポしてコルに戻る。途中大きな木を抱きこむところが悪い。三浦は寒さで右手に軽い凍傷、体も冷えたらしい。毛糸の手袋をつけ、少し動いたらなおる。下りはシリセードでぐんぐん下る。スキーで横尾へ。13時少し過ぎに到着。三浦は風邪気味。下級生のアイゼン着脱練習をして夕食にとりかかる。

◎ 3月10日(快晴, 16時 -10°C)

3時起床、5時15分発。三浦等休養。岩小屋で荷分けをして6時25分発。7時20分スキーをはずしてデポする。ルンゼ内の岩小屋で小休止し、潤がバテながらも良く頑張る、コルに10時25分に着く。10時を過ぎるとルンゼに陽があたってべたつき、雪崩の心配がでてくる。このルンゼは9時頃までに通りたい。10時45分コルを出発し、急な雪壁を1P慎重にのぼり12時20分にC I予定地に到着。菓子を食い、整地し、デポして13時30分に下り始める。新人2人はスキーを全部持って小屋へ。上遠野、平木、尾崎の3名は残りの全部の荷を持ち15時に岩小屋を出発し再びボッカする。1Pとちょっとで前述のルンゼ内の岩小屋に着き、そこにデポして横尾に下る。潤は腹が不調である。

◎ 3月11日(晴, 午後雪)

4時起床、6時55分発。平木下山。8時15分ルンゼ内岩小屋に着き、

昨日の荷も合せて全部を一気にコルまであげることにする。コルまでは快調にのぼり9時半に着く。途中小さな表層雪崩が2度見られた。20分休み、C Iに10時40分に着く。慶大アルペンの下山に会う。C I建設後雪になる。ここでは北穂の上と焼岳方面の上空の雲を見ると天気推移が分る。今日は全部の荷を一気にあげたため苦しかったがほっとした。20時就寝。

◎3月12日(雪, 6時半0°C, 17時半-10°C)

6時半起床, 9時20分に偵察に出る。三浦等休養。2時間で「歯」まで行く。C Iと歯の間は尾根がゆるく、広くなり快適だ。歯の手前にザイル等をデポし11時50分に引返す。約1時間でC Iに戻る。皮手の濡れが激しいためワセリンを塗らせる。

◎3月13日(時風強し, のち雪, 3時-13°C)

3時起床, 6時少し前に予定の荷を全部持ってコルに向かう。歯の手前で昨日のデポを更に背負い, 歯に取付く。少しヤバいがC Iの手前程ではない。1時間くらいかかってコブを3つ越えてチョン。あとはナイフリッジに行く。途中2回三浦のアイゼン(RCC)がはずれる。食卓中に日大隊が抜いていった。10時30分にコルに着き, 直ちに荷をデポし10時50分に出発する。歯の手前で小休止し, 12時半にC Iに戻る。気温が上り(+3°C)アイゼンにダンゴが付く。15時より飯づくり, 小雪がチラつきだした。

◎3月14日(風雪のち快晴, 2時半-13°C)

2時半起床, 5時50分発。天気は悪いが風は比較的弱かった。ラッセルが少しあったが, 風当りの強い稜線上はアイスパーンになっており快適であった。7時55分歯の手前で小休止し8時10分に出る。尾崎が落っこったため, 以後上達野がトップをやる。新雪をまめに落とし緊張する作業を繰返していく。9時頃通過し, ナイフリッジをかきわけ両側に雪崩をおこしながら進む。下りで三浦潤がスリップしたためザイルを用いる。斜面を恐れずに, 慎重に普通の足の置き方をすることが必要である。10時40分にコルに着き, 深い雪を踏み固めて幕営する。この直後ガスが切れ, 豪快な南岳のヒマラヤひだに感嘆の叫び声をあげた, 「オーッ」。気温-10°C風は強く横尾尾根の下の方及び国境稜線にはすごい雪煙が舞っている。

◎3月15日(快晴, 風強し, 4時-14°C)

いよいよ34mの稜線にあがる日が来た。4時起床, 7時半出発。最初に個

人装とテントと必要な食糧をあげた。ラッセルが深く、かつ比較的しまった雪で歩かない。荷を置いて空身のラッセルも行った。途中1回休んだ。上から2人降りて来、また下から日大がサブで追い抜いていったのでラッセルは楽になった。9時に稜線に出た。さすがに稜線は風をまともに受ける。テントサイトは少し槍の方へ行った岩場の間である。風が強く気温は低い。整地は今迄の様に踏み固めるのではなく、ビョーレで削り、鋸でブロックを作りそれを積み重ねて平らにする。細かい雪が顔にあたって痛い。どうにかテントを張り、食料倉庫用に半イグルーを作った。ブロックは丁寧に積んだが、気温が低く乾雪のためなかなか付かない。中で昼食をとり一休みしてから南岳へ行った。右側のはおがいやに痛い。雪の割れ目があっちこっちにある。南岳に立った。すぐ戻り、潤は不調でテントキーパーで残り4人がそのまま逆ボッカに行く。下は風が弱いのでキジを撃つ。1人15Kgの荷を上げた。遠く富士、北は白馬、西は白山までさえぎるものなく見える。テント場にもどり、キジ場を作ってそこまでフィクストロープを張る。これが後で大変役立った。19時就寝。

◎3月16日(風,ガス,6時-12°C,9時半-7°C)

6時起床。停滞。風、寒さともにさほど厳しくない。張網にエビのシッポがついている。トランプをつくり、ゲームに精出す。この日の天気図ではぶり返してしばらくだめ。すごい2つ玉が出来たのでテントの補強をする。夕方積雪は50cmぐらい。風邪薬がなくなった。

◎3月17日(強風,7時-23°C,14時-18.5°C,16時-22°C)

停滞。強風でブロックが倒され、また床が時々浮きあがるようになったので4時半にブロックを積みなおし、部分的には二重にした。入口が埋まったので掘る。夕方には時々薄日がさすようになった。山野がよりによってこんな時に大キジをうってくる。キジうちにはフィクストロープが大変役に立ち何度も命を助けられた。

◎3月18日(快晴,強風)

5時起床のつもりが寝すごして、7時55分アタックに出発。9時05分に肩の小屋に着く。既に3人パーティーが小屋の中にいた。9時20分上遠野、尾崎で第1回アタックに出る。凹角に雪がつまり、適度にしまり、夏よりも簡単だが一応ザイルで確保しつついく。コンテのあと3ピッチでいく。10時10分槍の穂先に着く。写真をとり、360度の展望をたのしんだ後、20分下り開始、45分肩に戻る。三浦がせきをした時血が出たというので、あわ

てて尾崎，潤，山野で第2次アタック。しかし尾崎が変なところへ行って時間をくったため，追いかけて2つのパーティに分け直し頂上へ向かう。写真を取りすぐに下って13時に肩着。そのままCⅡに向かう。三浦は苦しそうだった。潤も不調であった。CⅡで一休みして撤収を始め，15時35分CⅡを出発。16時05分にデポ地に着き必要なものをとる。フィクストローブは残念乍ら全部置いてくることにした。「齒」はザイル工作をしなおし，そのため時間をくう。CⅠの少し上で暗くなり懐電を点ける。ここからCⅠ迄はフィックスが埋まり，掘りだすのに手間どる。CⅠで小休止し，必要物を取る。暗い中を懐電を頼りにフィックスを掘出し，20時にコルに着く。15分休んでルンゼを下る。おそらく今日出たと思われる雪崩のデブリの中を黙々と歩く。出合に21時05分に着き，少し休み，やはり黙々と横尾に向かって歩く。小屋に22時10分に入る。早大山の会が既に寝ていたので静かに行動し，0時頃就寝。厳しい行動だったが，三浦の状態も落着きほっとした。皆よく頑張ってくれた。

◎3月19日(晴)

12時頃スキーでソリをつくり出発したがすぐにこわれる。16時10分に帝国ホテルに着き下山を告げる。雪はめっきりと少い。20時半頃暗い中を中の湯に着き泊まる。まさに地獄から天国へ来た感じである。今日の行動はスキーを使ったためかえって時間をくった。

◎3月20日(晴のち雨)

9時50分頃出発し，昼のバスに間に合う。三浦がえらくとぼし，2ピッチで沢渡についたら雨となった。

今回の山行は我々としては初めての経験が多く，長期間山に入って無事下山したという自信は今後の会の発展に大きく寄与すると思う。

今回の計画を実行するにあたり，11月2～5日に荷上げ及び取付点の偵察を兼ねた山行を行った。その際木村小屋よりリヤカー2台を拝借できたのは大助かりだった。ここで感謝の意を表しておく。

(上遠野記)

(計 画)

	B.C	C I	デボ地	C II	槍ヶ岳 (備考・スベア)
8	→	⑥			
9		←			荷整理, ルート工作
10		←			荷上げ (1)
11	② ←	→	⑤		
12		←			
13		←			(1)
14				→	(1)
15				←	(6)
16				←	(2)
17	←				
18	←				

(行 動)

	沢渡	中の湯	横尾	C I	デボ地	C II	槍ヶ岳
6			→	⑥			曇
7			←	⑥	(2)		快晴
8			停滞				雨
9			←	(3)			雪
10			←	(5)			快晴
11		① ←	→	⑤			晴のち雪
12	① ←			←	(4)		雪
13				←			晴のち雪
14				→			風雪のち晴
15					←	(南岳)	快晴
16						停滞	風ガス
17						停滞	強風ガス
18			←				快晴
19		←					快晴
20	⑤ ←						晴のち雨

3 五月谷川岳雪上訓練（1968年度）

○参加者—先発（C.L）三浦等，（S.L前半）滝口 （S.L後半）梅原
三浦潤，山野，平野，伊藤
後発 平沢，目沢夫妻，高木，佐久間

◎4月28日

0時20分上野発。土合のトンネルの中の駅に着き階段を見上げてびっくりした。口々にぶつぶつ言いながら登る。480段あった。駅で弁当を食べて下の新道を通って芝倉沢へ。川原には雪はまだだいぶ残っていた。芝倉沢の小屋の前の土の上に幕営。午前中はすぐ上で雪上訓練。キックステップの上下左右。新人の平野，伊藤を中心にやる。午後は幽ノ沢で訓練。雪がわりと柔らかい。

◎4月29日

幽ノ沢で雪上訓練。キックステップと滑落停止。天気もあまりよくなく，滑落停止で内と外からずぶぬれになる。ぶつぶつ言いながらも結構楽しくやる。去年のように上から言われるだけでなく，新人に文句をつけながらやるのだが，自分でも中々うまく出来ないのに他人を指導するのは難しい。言葉通りには身体が動いてくれない。昼は木にすわってコッヘルにいれてきた飯を食べる。訓練でおなかが空いて沢山食べられる。テントに帰ってぬれた衣類を着替えて晩飯をつくる。新人にさせるのでゆっくりできる。

◎4月30日

朝，まだ乾いていない重たい着物を着るとゾツとする。小雨の降る中を幽ノ沢で昨日の訓練の続きとグリセードをやる。雨が降って憂鬱だがグリセードは楽しい。ただ，登るのが大変だが。真っすぐには滑れるが曲るのが難しい。それでスピードが出すぎて止まらなくなる。

◎5月1日

今日は晴れていて暖かい。今までの総練習をする。昼に逆立ちして水を飲もうと試みたがだめだった。登山靴が重すぎる。午後ヘリコプターが上空をまわっていた。遭難があったらしい。

◎5月2日

芝倉沢をつめて一ノ倉岳へ行く。トップを交代してキックステップで登る。稜線には亀裂のはいった雪庇が沢山残っていたが登っている時にはブロックは

落ちてこなかった。天気が好くて気分が良い。雪が柔らかいのでキックステップが簡単にはいる。稜線は雪が消えていて夏道が現われていた。一ノ倉岳で昼食をとり同じコースを下る。少しグリセードで下り、あとはどんどんキックステップ。テントに早く着いたので汁粉を作ったのんびりした。蕨のとうを雪の下から掘り出して袋一ぱい築めた。

◎5月3日

高校生と平沢、目沢夫妻、高木、佐久間入山。幽ノ沢で雪上訓練をする。高校生には一日でキックステップと滑落停止を教えるので密度の濃い訓練をする。休むひまのないほど動かすが高校生は元気がいい。新人も高校生を鍛える。最後に急なところでテストしたが、急すぎたのか止まれる者は少なかった。

訓練を終って高校生はまっすぐ帰り、我々はテントに戻って荷物を持って土合へ。後から来たO.B.はあと2日残って訓練する。合宿が終って平野は「自分はやはり山が好きだったのが分ったが西朋では本格的に出来ない」と早大の山岳部に入り、伊藤は山に行く気がしない、と2人共退会したので今年は西朋に新人がいなくなった、残念。(山野記)

4 北岳、バツトレス第4尾根岩登り

○参加者—(C.L)上遠野、(S.L)三浦潤、山野

◎5月29日

午後3時に荻窪に集まり、車で食料器具を集め8時に上遠野さんの運転する車で出発する。夜の甲州街道をとばし、甲府から芦安、夜叉神峠のトンネルをぬけて広河原についたのは真夜中の0時。

◎5月30日

ここで車を置いて荷物を背負って川沿いに2ピッチ登る。雪溪が現われたところで木の間にテントを張ってすぐ寝る。朝7時に起きて朝食後すぐ出発。大樺沢の雪の上を登る。ガリーにはいると沢の真ん中の雪が1mぐらい窪んでいてその中を歩いた。上遠野さんがアタックザックやハーケンが落ちているのを見つけた。11時に第4尾根取付に着き、少しノーザイルで登り、ザイルをつけてからは初め上遠野トップで、すぐに三浦潤に交代し、上遠野セカンド、山野ラストとなる。難しいところが少しあったがわりと簡単だ。フェースのところで2度ほど落ちた。ハーケンの穴に指をつっこんでブラ下がったがスタンスが細かいのでこらえきれなかった。もっともすぐ下は平らになっているのでな

んともなかった。上遠野さんがせかすのでアブミを使って乗越したが回収にまた苦勞した。マッチ箱のコルにアップザイレンで下り、少し登って、予定していた中央稜に行くかと上遠野さんにきかれたが、なんだか非常に疲れていてやる気がなかったので行かないことにした。左上につめて稜線に出てから下り始め、コルからは雪の中にできた窟みの中を滑り降りた。非常に快適だ。足の下に雪がたまってきたら適当に止まる。一気に下ってテントをたたみ18時に広河原の車に着く。帰路の車中、眠くなって寝てしまったが上遠野さんは一人で運転していて大変だったろう。今回の山行は疲れだけ感じて、岩場をどう登ったのか後でまるで思い出せない。やはり山行はゆったりしたのに限る。

(山野記)

5 夏山合宿(1968年度)——屏風岩

○参加者

◎7月27日

前日、山の用意やら何やらで2時間しか眠れず朝4時に起床し、5時に新宿に着く。臨時急行は待っている人もなく、楽に坐れた。しかし発車時には座席は満員になる。川田、上遠野両氏と3名である。見送りもない。松本で回送のマイクロバスを上遠野氏がみつけ、1人600円で乗る、遅よし。途中バスにのれなく困っていた女の子5人を乗っける。1人は毛唐なり。今春横尾尾根をやった時2日間かけて歩いた道をバスで通る。所々フツと春の事が頭に浮かぶ。台風が近づいているので小雨模様。横尾で山野と合流し幕営。

◎7月28日

朝から小雨模様なり。台風も近くなり当分晴れそうもないので予定を変更し、南稜へテントをあげず屏風をねらう。中央カンテ(5B)の取付きを調べがてら登る。途中から時間と天候を見合わせて引返し、ちょっとした岩場で僕と山野が人工登攀の訓練をする。アブミがふらついて困る。この場所で川田、上遠野の両名が10m位の岩場を登ったが途中ハーケンが抜け上遠野氏が落ちる。3~4m真っ直ぐに立ったまま落ちたがなんともない。川田氏がアタックしたが又ハーケンが抜け敗退。再度上遠野氏がアタックして成功した。結構訓練になったが雨でビシヨビシヨになり、岩小屋でたき火したりしながら帰幕。

◎7月29日

朝から天気は悪い。台風は停滞の様。それでも中央カンテに行くと言う。7時テント発。取付きは昨日調べておいたのでスムーズに行く。そこから灌木帯をザイルで確保しながら登る。パーティーはジャンケンで上遠野山野組と川田三浦組に分れる。初めは僕と山野がトップで行ったがヤバくなってから交代した。上遠野組が先に行く。しばらく登るとノツペリした壁に出る。ここから6~7ピッチは殆んどアブミの掛けかえでゆく。下を見るとストーンチョとおちているし、落石も頭の上を通過して下まで落ちていく。ためしに木ぎれを投げてみたら全然壁にさわらずに下に消えた。雨が時々降ったが雨も壁に平行に降っている。こちらの感覚がおかしくなったみたいだ。ハーケン、ボルトが連打されているし、よくきいてもいるがなんせ途中のピレーの場所がない。チョツとしたテラスに立ったままグリップピレーをするのがやっとだ。トップが落ちたら一巻の終りとなるかもしれない。登っても登っても壁は続く。昼飯もろくに食わないで登り、パテパテで壁の部分を出ると凹角になる。これを登り終えると今度は垂直の草付きで壁より始末が悪い。なんせ掴まる所がなくおまけにハーケンもない。よくこんな所に草木が生えていると感心する。この頃から暗くなり大きなテラス(6人位坐れる)に出る頃には真っ暗になりビバークと決まる。雨に濡れながらハーケンに身を確保し、弁当の残り^と非常食を食ったが腹はへっているのに疲れすぎていて飯が食えない。下からコーヒーを作って持っていったがとてもうまかった。途中山野が1/2水の入った僕の水筒を落したので水は全部で1/2位、貴重だ。着れるもの全てを着て寝る。雨がかかるが結構眠れた。

◎7月30日

薄明るくなってから起きて5時すぎに出る。1ピッチで急に上に出た。ここから屏風の頭までは灌木、這松をぬって進むがこれがまた長かった。そこから溜沢に出て溜沢ヒュッテにたどりついたのが10時頃、ヒロンヒロンだった。小屋でお茶を飲み、ラーメン(百円ナリ)を食い、ローソクで暖をとって休憩する。こちらは食い物全て無くなったので、そこにいたパーティーが弁当6ヶきゅうり5、6本、レモン2個をくれた。おありがとうございます。小屋を出たのが12時45分、テレテレ下って横尾まで丁度2時間、やっとたどりついたというわけです。

◎7月31日

上遠野氏が入社試験の為下山せねばならなくなり、川田氏も天気がよくないので溜沢でのスキーをあきらめて2人で下山ス。僕は1日に入ってくる河野を

待たねばならないので山野に居てもらって2人で1日中ポケッとしている。ここで今回の夏山合宿は終りというわけです。最後に、この日山野がおむすび山を初登頂(?)し、雨に降られてあわてて帰ってきた事と、運動不足の為か、2人でかわりばんこにキジばかりうっていた事を付け加えておく。

(三浦潤記)

(行 動)

- 7月27日 川田, 上遠野, 三浦潤……新宿→横尾
山野……富山→横尾
- 7月28日 屏風偵察, 人工登攀訓練
- 7月29日 屏風中央カンテ, ビパーク
- 7月30日 ビパーク地点→濁沢→横尾
- 7月31日 川田, 上遠野……下山
潤, 山野……ポケッ

6 冬山合宿(1968年度)——八ヶ岳

◎参加者—(C.L)上遠野, (S.L)山野, 目沢

◎12月26日

- 茅野(05.45~06.00)—美濃戸口(06.40~07.15)
- 美濃戸(08.35)—赤岳鉱泉(12.20)

前夜23時55分発の夜行で新宿を出, 茅野からはタクシーで美濃戸口へ。バスもここまで入っていた。朝食後自動車道路を歩きだす。美濃戸から柳川北沢に入る。自動車道はすぐ終り沢の中に行く。途中食事をして12時過ぎに鉱泉につき幕営する。幕営料をとられて不満。

◎12月27日(晴, -8°C)

- 起床(04.10)出発(06.45)—中山乗越(07.10)—第1の壁(09.00)—第1の壁を越す(14.00)—下降開始(15.00)—幕営地(16.30)

3人で中山尾根に行く。乗越まではトレールがありアイゼンで行く。乗越からは林の中をラッセルして尾根どおしに。かなりもぐり, 小さい木があるので歩きにくい。開けたところで横岳西壁の岩場を本と見比べる。第1の壁に着き, 食事を少しとってザイルを出し, 上遠野トップで登攀開始。岩壁の下を15m 右にトラバースしてそこから左上へ。非常にヤバく, 岩がぼろぼろで崩れそう

だが凍っている。ハーケンを打つ所を探すのに苦勞している。上に7 m登ったところで確保，山野トラバースして確保。上遠野次に左上に行き，次いで右上へ。1度落ちたがハーケンで止まる。その上からは雪の急斜面を登る。次に目沢トラバースし，山野が登る。アイゼンをつけ，手袋をはめているので登りにくい。ザイルに頼りながら強引に登った。そこから雪の尾根を80 m位登ったところで昼食にした。時間がかかって遅くなり北アの方の天気が悪くなってきたので引返す。壁は40 mのアップザイレンで一氣に下り，右側の谷を下りて帰る。上遠野さんは風邪で調子が悪い。非常に疲れた。

◎12月28日

起床(05.00)出発(08.10)－行者小屋(08.45)－阿彌陀岳(10.00)－昼食(10.30～11.00)－赤岳(12.00)－石室小屋(13.00)－赤岳(13.50)－幕営地(15.35)

目沢，山野阿彌陀岳・赤岳へ。

阿彌陀北稜をやるつもりで出発。行者小屋から阿彌陀岳中岳のコルに着いた頃から天気がくずれそうだったので一般ルートを阿彌陀へ。頂上に出ると強い風が吹いてきた。富士山，南アがきれいだ。ガスってきた中を下り，中岳を越え赤岳の下でツェルトをかぶって昼食。視界がきかず文三郎道の分岐から右にトラバースするところを道を見失い，真っすぐ登って壁につきあたり右の急な沢をつめると赤岳南峰に直接出た。赤岳石室から下りる道をさがし，沢ぞいに下り始めたが滝らしいので引返し，赤岳に戻った。天気も回復し晴れてきたので龍頭峰とのコルから下り，先ほどの道のまちがいを見つつ文三郎道を下った。

◎12月29日(曇のち晴)

起床(05.00)出発(07.40)－阿彌陀中岳間のコル(09.00)－トラバース終り，ザイルつける(09.30)－登攀終了(10.55)－阿彌陀岳(11.05～35)－幕営地(12.23)

目沢，山野で阿彌陀北稜。

阿彌陀中岳のコルまでトレールを進む。コルから右へ北稜までトラバース。途中から上に登ったが急斜面でラッセルに苦勞。尾根に出る少し前ザイルをつける。目沢トップで尾根上の木の間をどンドン行く。2ピッチで岩場に出る。左側面から取付き，稜上を快適に登る。ホールド・スタンスが大きくて簡単。少し雪の稜線を行き次の岩場に。左端に取付き，右上次いで直上して終り。雪稜づたいに頂上へ。ラッセルが大変だったが北稜は簡単だった。頂上で昼食後下る。

◎12月30日(晴)

起床(03.00)出発(06.20)ー最初の滝(07.40)ー横岳稜線(13.30)ー硫黄岳(14.00)ー暮营地(14.45)

3人で裏同心ルンゼに行く。先行パーティーがありラッセルがしてあった。第1の滝はめいめい勝手に登る。5mぐらい。そこで二股になっていて本流は右だが左に入る。すぐ5mの滝、ザイルを出し、山野トップで左端を登る。初めてアイスハーケンを使う。最後に水が噴き出てびっくりした。次いで上速野さん。目沢さんは右端をひとりで登る。その上にもう一つ滝があり、山野取付くも敗退。上速野成功。氷がやわらかいのでスクリーパーハーケンはあまりきかない。アプミも使用。山野セカンドで行くが長いアイスハーケンを抜くのに苦労する。目沢さんはそこで下りる。沢をつめると岩壁で右側を上速野トップで登る。すぐ雪の斜面となる。道松の生えた岩場や雪の斜面を数ピッチ登って尾根の肩に出る。風が強いのでツェルトをかぶって昼食をとり、尾根上の岩場をコンティニアスでどンドン行き、ザイルをはずしてからトラバースして横岳の稜線に出る。石室のすぐ上で硫黄を越えて赤岩の頭から下る。途中で登ったコースを見たが僕にはなかなかわからなかった。

◎12月31日(曇)

テントを撤収して下山。河原づたいに行く。天気はだんだん悪くなりそうである。調子よく美濃戸口まで下る。

(山野記)

B 新人紹介

永井祥一君（20期）

8人用夏天にタテに寝て入口から足が出るとか。総身に知恵がまわりかね、の口。西高在学中の弟の方がハンサムで頭も良いともっばらの噂だが兄貴だけは頑として認めたがらない。彼の入会を最も喜んだのは2年間入口生活を送った山野君。米喰い魔の2代目に仕立て上げると今から張切っている。

伊東伸作君（21期）

別名泣きの伸作。噂だと思ったら飲ませてごらん。上遠野2世を以って任ずる。しかし師匠が時計・シュラフなど高価なものばかり拾って身につけているのに、弟子の方はまだ、つかない懐電、食べ残しの弁当程度の腕前。早く雪の上で塩を捨てるくらいの域に達してもらいたいもの。

10x2000
120000

40x2000=80000

C 住所録

◎特別会員

- ✓都 筑 修 一 長野県松本市女鳥羽町 4 6 3
- ~~鳥 山 謙 名 目黒区上目黒 5 - 2 4 2 5~~
- ✓中 村 淳 世田谷区代沢 2 - 2 5 - 2 0 (4 1 1) 1 9 7 4
- ✓岩 井 富士雄 台東区浅草桂町 3 - 2 (8 5 1) 1 9 0 8
- ✓布 施 千恵子 千葉市稲毛町 2 - 4
- ✓藤 崎 武 西多摩郡日の出村大久野 1 7 1 3 (五日市) 2 9 7
- ✓石 井 学

◎普通会員

横浜市旭区 近山団地
1-4-304

- ✓安 藤 英 弱 1 三鷹市深大寺 3 8 2 9 富士見住宅 2 1 2
- ✓林 春 彦 2 江戸川区北小岩 5 - 2 8 - 3 (6 5 7) 7 5 5 5
- ✓南 波 貞 敏 2 国分寺市南町 2 - 1 0 - 2 2 0423 21 2361
- ✓長 崎 正 躬 4 鎌倉市山崎 1 0 3 (0 4 6 7) 6 - 2 8 5 1

◎田 中 将 利 4 杉並区西荻北 2 - 1 1 - 1 3 西荻窪マンション 4 0 5
(3 9 6) 6 4 1 0

◎田 中 実 4 杉並区阿佐谷南 1 - 3 - 1 8 (3 1 1) 6 3 8 9

◎平 沢 勇 4 杉並区天沼 2 - 1 - 2 (3 9 1) 3 6 1 3

✓笹 田 英 次 4 中野区仲町 1 3 (3 6 3) 7 6 3 1

鈴 木 輝 夫 4

✓山 口 雄 弘 4 武蔵野市吉祥寺本町 2 - 1 4 - 2 7

✓佐 藤 信 治 4 八王子市本郷町 2 0 (0 4 2 6) 2 - 1 1 3 6

✓松 田 朝 夫 4 大阪府豊中市本町 9 - 5 9 花蝶団地 2 1
豊中 (5 3) - 2 7 1 0 (呼)

✓町 田 明 4 杉並区下井草 4 - 2 0 - 2 0 (3 9 0) 3 2 1 7

✓見 里 朝 規 4 兵庫県龍野市龍野町日飼 2 2 5 - 4

✓渡 辺 享 4 杉並区天沼 3 - 7 3 6 (旧)

◎目 沢 民 雄 4 杉並区荻窪 1 - 1 0 8 (3 9 3) 0 7 4 3

✓成 瀬 泰 雄 5 文京区西片 2 - 8 - 7

✓加 藤 鈴 夫 5 杉並区永福町 4 7

✓鈴 木 潤 5 杉並区下高井戸 4 - 9 4 7 (3 1 2) 2 7 9 1 (留守宅)

✓岩 崎 元 子 6 ~~杉並区上荻窪 4 - 1 2 - 2 9 (3 9 3) 0 7 5 1~~

✓桑 田 敏 子 6 横浜市戸塚区二ツ橋町 4 7 5 (0 4 5 - 3 6) 5 3 3 6

(旧姓 亀山)

○ 稲田弘美 埼玉県朝霞市膝折433 (0484-62)2605
旧姓伊藤
▽ 飯塚康史 6 立川市砂川町34-2 けやき台団地29-304

▽ 岩波康之 6 葛飾区小谷野町303

▽ 米野弘躬 6 ~~豊島区池袋2-1692 本郷方~~ 立川市官境町6-180 ^{官境住宅20-5}

▽ 小田尚於 6 横浜市戸塚区笠間町1324 大船マンション411 0425 25
(0467-6)4385 8893

▽ 林武志 6 武蔵野市吉祥寺東町1-11-7 (0422-22)
5475

▽ 川口和雄 6 川崎市百合ヶ丘1-9-7 (044-96)0162 ^{0484 61 2511 内 355}

▽ 松白稔 9 ~~杉並区神前町9-3 (332)1296~~ (333)1658 ^{市野町 1-96}

▽ 黒沢隆 10 藤沢市大鋸藤沢団地38-1202

▽ 橋本銅太郎 11 練馬区立野町909 (920)4434

▽ 今井美治 11 世田谷区森徳寺1-42-4 (427)0905

○ 田中康弘 11 中野区大和町3-32-1 (385)122 ~~044 86 311~~

319)9075

▽ 野中徹 11 中野区宮園通り5-7 (381)0636

▽ 関谷興雄 11 武蔵野市境南町1-12-15 (0422-44)7774

○ 小川建吾 12 杉並区上高井戸3-857 (334)0013

○ 堀内俊夫 12 中野区上鷺宮1-9-17 (990)7658

▽ 川田秀明 12 杉並区大宮前6-357 (333)3374

▽ 橋本章 12 ~~平塚市中里80-2 日本ソグ平塚寮~~ 平塚市川幡477
(0463-22)1410

・私山
・吉田

▽ 野原光 13 川崎市宮崎字新鷺沼1540

▽ 板垣乙未生 14 杉並区井荻2-60 (390)6394

▽ 山本省治 14 杉並区高円寺南4-46-1 (312)2439

▽ 小津亮介 14 船橋市大穴町665

▽ 福田善明 14 ~~杉並区永福町26 (328)7243~~

▽ 平木桂太 15 杉並区荻窪2-96 (332)2897

○ 上速野清 17 杉並区今川2-4-16 (399)4097

○ 三浦等 17 中野区新井1-28-4 (386)2054

○ 梅原伸二 17 杉並区西荻北2-4-12 (390)0363

○ 宮武義照 18

○ 尾崎純理 18 練馬区練馬3-17-1 (991)4279

○ 滝口道生 18 目黒区自由丘3-2-2 (718)1576

○ 三浦潤 18 杉並区高円寺北1-10-22 (386)0833

○ 山野裕 19 世田谷区祖師谷2-136 (483)2761

-21-

神市東難住居団反高林1876-39

(TEL) 078 81 5001

川崎難住居寮 B-302

(399) 3318

✓ 永 井 祥 一 20

杉並区本天沼 3-41-2

(~~399~~) ~~0631~~

✓ 伊 東 伸 作 21

北多摩郡久留米町ひばりヶ丘団地 168-265

(0424-64) 6515

D 西高WV部部員住所録

◎3年生(22期)

- ✓ 在 間 直 樹 三鷹市牟礼三鷹台団地25-405
 (0422-45)8511
 ✓ 田 口 真 啓 練馬区旭丘1-33 (953)1254
 ✓ 永 井 浩 之 杉並区天沼3-41-2 (399)3318
 ✓ 依 田 桂 子 川崎市生田6659-49 (044-96)2561
 ✓ 吉 沢、美 波 杉並区天沼2-9-4 (391)1107

◎2年生(23期)

- ✓ 荒 木 仁 夫 練馬区田柄2-14-12 (930)5206
 鈴木 幸 弘 練馬区豊多摩北4-5 (991)2577
 田 原 宏 一 郎 世田谷区多摩川奥沢町3-98 (701)3546
 ✓ 西 井 和 彦 杉並区善福寺2-1-2 (399)4129
 ✓ 吉 田 真 也 町田市成瀬3577-59
 ✓ 甲 斐 洋 子 中野区東中野4-7-21 (371)3016
 嶋 田 桂 子 中野区新井2-30-7 (386)2552
 東 郷 類 子 中野区上高田5-25-7 (386)7538

◎21期卒業生

- 古 西 和 夫 中野区中野1-39-2 (369)0031
 在札幌市北24条西14丁目阿部初代方
 ✓ 水 口 泰 介 杉並区阿佐谷北1-3-11 (338)1728
 ✓ 伊 東 伸 作 北多摩郡久留米町ひばりヶ丘団地168-265
 (0424-64)6515
 ✓ 中 村 正 俊 杉並区成宗2-877 (311)8647
 ✓ 長谷川 誠 杉並区下井草3-33-7 (390)0047
 在仙台市
 早 瀬 友 秋 杉並区松庵北町139 (332)5016
 ✓ 山 本 太 一 杉並区下井草5-13-3 (390)6286
 ✓ 渡 辺 喜 仁 杉並区阿佐谷北5-9-13 (337)2635
 ✓ 藤 田 明 子 三鷹市井之頭2-11-22
 (0422-43)1320
 ✓ 山 田 優 子 武蔵野市西久保1-37-4 (0422-51)2260

✓ 入戸野 まゆみ 杉並区高円寺南 2-17-15 (312) 4920
 長島 裕子 国分寺市戸倉 4-1-13 (0423-22) 1049

◎20期卒業生

① 八鳥 久男 杉並区久我山 3-203 (334) 9384
 在 京 都 市 左 京 区 北 白 川 東 平 井 町 27 谷 泰 方
 ② 中尾 成邦 杉並区永福町 304 (328) 5641 在 京 都 市
 石 樽 康 利 世 田 谷 区 下 馬 1-124 広 沢 方 (414) 2748
 ③ 永井 祥一 杉並区本天沼 3-41-2 (399) 3318
 早 瀬 久 起 杉並区松庵北町 139 (332) 5016
 ④ 山本 泉 杉並区善福寺 1-17-19 (399) 8641
 ⑤ 中井 早苗 杉並区下高井戸 1-64 (321) 7115
 星 野 敬 子 杉並区上高井戸 3-666 (333) 5425
 ⑥ 稲葉 光子 杉並区上高井戸 3-885 (332) 2603
 ⑦ 羽柴 春実 杉並区和泉町 268 (328) 6017
 ⑧ 岩井 祥子 立 川 市 富 士 見 6-6-27-402
 (0425-25) 7345
 ⑨ 三枝 みのり 中野区松ヶ丘 1-1-15 (389) 0971

◎19期卒業生

伊 藤 義 和 武 蔵 野 市 吉 祥 寺 南 町 5-8-1 (0422-43) 9073
 山 崎 恒 北 多 摩 郡 保 谷 町 本 町 3-16-24
 ① 高田 徹 杉並区本天沼 3-26-5 (396) 0912
 ② 小川 秀策 杉並区清水 1-8-10 (391) 1673
 ③ 平野 誠 杉並区天沼 1-28-7 (392) 4664
 ④ 山野 裕 世 田 谷 区 祖 師 谷 2-136 (483) 2761
 ⑤ 高木 彰子 武 蔵 野 市 吉 祥 寺 本 町 4-24-9
 井 口 みどり 杉並区大官前 5-214 (392) 4870
 ⑥ 佐久間 令子 練馬区東大泉 1124 (925) 6769
 西 村 陽 子 三 鷹 市 井 之 頭 3-5-5

編集後記

▽1年半ぶりで「西朋」をお送りします。山行報告だけになりました。▽この1年間、活動的な学生会員の活動場面が山から学園に下りてきてしまいましたのでその山行内容も決して満足なものとは申せないものとなりました。

しかし、限られた人数での春の横尾尾根の成功は光っています。▽新人が2名入会しました。停滞気味の西朋に新風を吹きこんでもらいたいものです。▽西高WV部が存続できるか否か、現在危機的状况にあります。有形無形の援助をお願いします。▽住居表示変更などの会員が多いので住所録を整理してみました。住所に限らず、異動がありましたら係までお知らせ下さい。

(平木)

代表：田中 将利
副： ~~加藤 隆~~ 加藤 隆
副： 目次
1-2-1： 目次
西高係： 小川、梶内

会計： 上野
庶務： 平木
学生表： 三浦 尊
記録：
器具： 三浦 程

西 朋 第 17 号

昭和 44 年 5 月 1 日 発行

編集人 平 木 桂 太

発行所 西 朋 登 高 会

東京都杉並区天沼 2-1-2
電話 (391) 3613 平沢方

印刷者 東京大学出版会教材部

東京都文京区本郷 7-3-1

電話 (813) 7339